

# 「英国メリデン版訪問家族支援」 普及プロジェクト

公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-46-13 ホリグチビル 602

## 助成事業の概要

現在、日本における精神障がい者の家族に対する支援が何もないため、当会は専門職による障害者宅への訪問支援を主張してきた。そこで英国のバーミンガムから発した「メリデンファミリーワーク」という専門職の訪問による当事者、両親、兄弟などの家族全体に対して行われる家族支援の技術が英国で効果を出していることを知り、日本へ普及できるようにプロジェクトチームを立ち上げ取り組むこととした。

その一環として、英国バーミンガムで行われるメリデンファミリーワークの「基礎研修」に参加してもらったメンバーを各専門職団体などへ募集をかけて、5名選考し、この5名が6月15日～19日の5日間、「基礎研修」を受講した。

内容は、講師1名に対し受講者5名以内のグループで、徹底的にロールプレイによる研修でスキルを習得する内容がほとんど。受講生はイギリスNHSの職員7名と英語による情報の共有・再発予防・アセスメント・コミュニケーションスキル・問題解決の主に5つの家族支援を学んだ。

## 事業の成果

今回受講生が学んだ、英語による情報の共有・再発予防・アセスメント・コミュニケーションスキル・問題解決の主に5つの家族支援の技術をそれぞれの家族にあわせて臨機応変に組み合わせ、とても柔軟性の高い行動療法的家族療法で、特に

早期あるいは初発の家族に提供されると最も大きな効果を発揮できる技法であるが、それ以外の家族にもとても有効な支援技法である。受講した5名が感じたことは、技術そのものもさることながら、本人・家族・支援者のトライアングルを大切にしているように、この家族支援の理念がとても重要で、家族をどのようにとらえ、どのような姿勢で、どのように支援していくかについてとても大きな学びとなったと実感している。さらに、この技術を日本の支援者にトレーナーとして教えていくには、この技術を自らが日本で実践して、日本における支援の工夫を伝える必要があると考えており、受講者5名で定期的にカンファレンスを行い、日本にフィットした家族支援のあり方を模索し、それを普及していく必要性を感じておられるようだった。

特に今回の5名が話していた「家族をどのようにとらえ、どのように支援するべきか」というメリデン版訪問家族支援の理念を伝えることが重要であるとの認識は、日本の家族支援に大きな力になると思われる。

今後の課題は、今回の受講生のスーパービジョンである。これから自分の業務の中で協力いただける家族に支援を開始するわけであるが、それを実践するには自分の実践の点検が必要となる。Skype等を活用しながら、今回の研修のスーパーバイズを受け、5名の家族支援技術の向上を図る。また、この5名だけではそれぞれの個人的事情で抜けざるを得ない人も出てくることも想定してみると日本全国に普及していくには十分な人数とはいいがたい。そのため、今後さらに受講者

を確保するような計画と実行が必要である。

団体、行政等へ積極的に働きかけていく。

## ■ 成果の広報・公表

当会主催のイベントでは、今年の 9 月に福岡県で開催される「みんなねっと全国大会」にて、今回のメリデンファミリーワークの「基礎研修」の報告を行う。来年の 3 月には東京で、「精神障害者の家族支援」を日本で実現するためというテーマでフォーラムを開催し、その中で今回の事業の成果を報告し、「家族支援」の日本での普及に努めていく。当会から発行されている「月刊みんなねっと」で、事業の報告を掲載し、みんなねっと会員へ広報していく。

すでに受講者の数名は外部より本研修の報告会を依頼されており、今後メリデン版訪問家族支援の普及に貢献していく。

## ■ 今後の展開

今回の基礎研修受講者は、次のステップとして 2017 年 1～3 月頃に実施されるトレーナーズコースを受講して今回学んだ「メリデンファミリーワーク」の技術を向上し、指導者として「メリデンファミリーワーク」の日本での普及に努めていく。また、トレーナーズコース修了者はプロジェクト委員とともに日本版精神障害者訪問家族支援研修プログラムの案を作成する。

今後は日本国内でも精神障害者訪問家族支援研修を行い、2016 年度に英語によるメリデンファミリーワークの基礎研修を、2017 年度以降にトレーナーズコース修了の日本人による「メリデンファミリーワーク」の研修を行う予定である。

以上のような研修や各地で受講者の講演会を行いながら、日本での「メリデンファミリーワーク」の必要性とその技術を日本国内で伝えていき、当会と今回の受講者で協力しながら、支援者、関係